新潟市歴史資料だより

平成20年９月30日

第７号

資料紹介
中央区学校町通　土屋家文書

土屋家文書は、幕末から明治期を中心とし、江戸期から昭和期に及ぶ約980点の文書です。内容は土屋家の家職だった鋳物業関係が中心です。平成17（2005）年に寄贈されました。

鍋や釜などを鋳造する職人のことを鋳物師と言います。新潟町の鋳物師は、お寺の鐘や大砲を鋳造する技術も備えていました。はじめ相場家と藤田家の２家が鋳物師を営んでいましたが、後にそれぞれ土屋家と市島家に鋳物師株（鋳物師の営業権）を譲りました。土屋家は片原堀（中央区東堀）に面した場所にありました。

掲載の文書は、嘉永元（1848）年に土屋忠左衛門が西福寺（魚沼市大浦）から大鐘（梵鐘）の注文を受けた際、その大きさ、値段、代金の受け取り方法などについて記した証文です。鐘は口径２尺８寸（約85センチメートル）、重さ約210貫（約788キログラム）であること、値段は鐘が出来上がった時に、双方立会いのもと、重さ１貫200匁（約4.5キログラム）に付き１両の割合で算出すること、代金は半額ずつ２回に分けて受け取ること、鋳損じて鐘の音色が悪い場合は注文者の気に入る品物に代えることなどが記されています。忠左衛門の隣に名が記されている王番田村（長岡市）の「口入人　四郎左衛門」は、鐘の注文の仲介者と考えられます。また、西福寺の後ろには、鐘の発注に関わった旦頭（檀徒）総代の名が記されています。この鐘は、翌年の閏４月に完成して西福寺に納められました。

西福寺は曹洞宗の古刹で、境内の開山堂には幕末の名匠石川雲蝶の彫刻があり、県文化財に指定されています。忠左衛門の作った大鐘は、表面に三十三観音のレリーフが鋳出されています。文化財として価値があるため、戦時中の金属供出を免れ、現在も鐘楼に架けられています。

差上申注文請取証文之事

一　大鐘　壱箇㊞　但　口差渡シ弐尺八寸
　　目方弐百拾貫匁位

一　直段之義者、金壱両ニ付目方壱貫弐百匁ツヽ之以割合、出来上り之節、双方立会目方相改、代金惣高相定可申事

一　代金請取方之儀者、鐘出来上り之節、高之内半金者御頂戴可申定、残金之儀者、来酉四月中不残御頂戴被仰付候事、尤鐘出来上り候節、私共届通り之御文言ニ而証文御預ケ置被下候事

一　品物鋳損音声悪敷事有之候節者、御気ニ叶ひ候品奉差上可申定之事　㊞（雑目印）

一　大鐘運送之儀者拙者引請、西野村ニ而御渡可申定之事

右ケ条之通り異変有之候共、一銭ニ而も雑費抔与申立、毛頭願ケ間敷儀御縋申間敷候、為念印証、如件

嘉永元申年　新潟湊
八月日　土屋忠左衛門㊞
王番田村
口入人
四郎左衛門

魚沼郡大浦村
西福寺様
旦頭惣代十日町
同断大浦村　喜三右衛門殿
同断雷土村　利左衛門殿
同断大浦新田　七兵衛殿
同断雷土村　弥次郎殿
㊞（雑目印）

「天地人の時代と新潟」展を開催

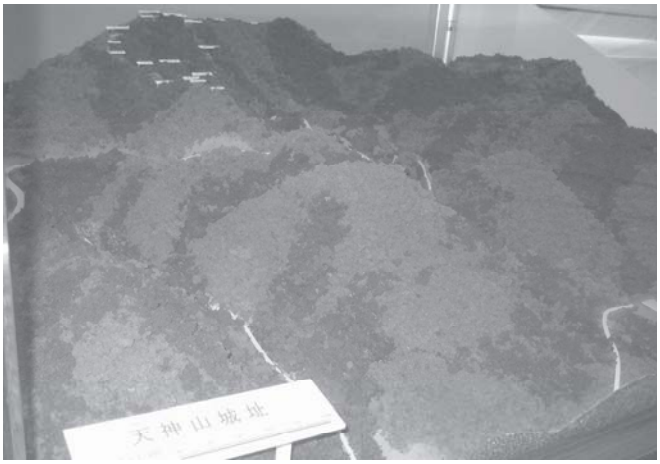
戦国時代から江戸時代へ、激動の時代を描く来年のNHK大河ドラマ「天地人」と、新潟の歴史に焦点をあてた「天地人の時代と新潟」展を、７月19日（土）から９月28日（日）まで、新潟市歴史博物館（みなとぴあ）エントランスで開催しました。

「天地人」の主人公・直江兼続（なおえかねつぐ）の実弟大国実頼（おおくにさねより）は、西蒲区石瀬の天神山城の城主でした。また、上杉景勝と新発田重家の抗争では、新潟津をめぐる攻防戦が繰り広げられ、新潟や沼垂の町衆の動向が勝敗を左右しました。

展示では、パネルのほかに、天神山城址のジオラマ、新発田城跡・和納館跡などの発掘調査で出土した遺物も展示しました。また、「天地人」のテーマである「義と愛の心」に生きた新潟市ゆかりの先人24人をパネルで紹介しました。

「天地人」と新潟に関する展示は、現在、西区の新潟ふるさと村情報館で開催されています。また、このあと、秋葉区、西蒲区などでも開催される予定です。

パネル展示の様子



天神山城址のジオラマ

歴史資料に関する主な事務内容

■資料の公開

歴史資料整備室で、古文書等の複製資料や図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図は横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所３階）で公開しています。横越センターをご利用の際は、事前に歴史資料整備室へご連絡ください。どちらも１枚10円（カラーは１枚70円）で複写（コピー）できます。

■資料の保存

歴史資料整備室では、新潟市史編さんなどで収集した資料や寄贈資料等の整理を行っています。

また、資料のマイクロフィルム撮影と焼付による複製本を作成しています。今年度は、下記資料の複製本を作成します。

①上大川前通小沢家文書（江戸から昭和期の資料）
②沼垂長谷川家文書（江戸から明治期の資料）
③豊栄市役所文書（江戸から昭和期の資料）

■資料の所在調査

民間に所蔵されている歴史資料の所在や現況・分量を把握するため、平成17年度から合併市町村を対象に資料の所在調査を実施しています。今年度は西蒲区の巻・西川地区を調査しています。９月末までに22か所の調査を行いました。目録がないものは、一部を整理して記録しています。

■公文書分類センター

合併による旧市町村の公文書等の散逸防止と歴史的文書の保存のため、市内６か所の出張所内に設けた公文書分類センターに収納されている約２万箱の長期保存文書（一部有期限文書を含む）を、順次、整理・目録作成を行っています。今年度は岩室と小須戸センターの収納文書、および横越センターの旧土地台帳の整理・目録作成を行っています。

■歴史講座の開催

歴史資料を読み解きながら新潟の歴史を学ぶ、講座「古資料が語る新潟の歴史」を10月２日から10月30日まで全４回、新潟市生涯学習センター（中央区礎町通３）で開催します。詳しくは歴史資料整備室にお問い合わせください。

■歴史双書の刊行

「新・新潟歴史双書」の第４巻目として、今年度は『内野新川』（仮称）を刊行します。四六判、約160ページ、平成21年３月刊行予定です。

■黒埼市民会館歴史展示コーナー

黒埼市民会館（西区鳥原）の１階ロビーに黒埼地区の歴史を紹介する小展示コーナーがあります。10月中旬から「緒立八幡宮あたり」の展示を行います。

歴史文化施設紹介 ― 中之口先人館 ―

中之口先人館は、様々な分野で輝かしい業績を残した故郷の先人を顕彰し、その生き方や考え方を地域づくりに反映することを目的に、平成12年11月にオープンしました。建物は、屋根の上に大きな刀を載せたような特徴的なつくりで、建物の前には土俵と相撲やぐらがあります。

先人展示室では、第36代横綱の羽黒山、漢学者の小柳司氣太（おやなぎしげた）、東映映画創設者の大川博など、26名に及ぶ中之口地区ゆかりの先人が紹介されています。なかでも羽黒山に関する資料は、相撲部屋入門時の誓約書や横綱免許状、出身地の羽黒集落から贈られた化粧回しなど充実した内容です。また、館内には民具や文化財の展示コーナーがあります。

先人館から車で10分ほどの所に「澤将監（さわしょうげん）の館」があります。江戸時代の大庄屋・澤家の邸宅を復元した施設です。こちらも是非ご覧ください。

＜案　内＞

・開館時間：午前９時～午後４時30分
・休 館 日：月曜日（祝日の場合はその翌日）
　　年末年始
・入 館 料：大人200円、高校生100円（団体20名以上は大人150円、高校生50円）。中学生以下は無料
　　澤将監の館との共通入館料は大人400円、高校生200円（団体20名以上は大人300円、高校生100円）。中学生以下は無料
・所 在 地：新潟市西蒲区中之口363番地
・電　　話：025－375－1112
・交　　通：北陸自動車道巻・潟東ICから車で約10分

中之口先人館

先人展示室

写真紹介
新潟駅のいまむかし

新潟市には、かつて庶務課という課があり、『市勢要覧』の刊行を担当していました。歴史文化課には、庶務課旧蔵の写真アルバムが28冊あり、貴重な写真資料となっています。庶務課旧蔵アルバムから、新潟駅の３景を紹介します。

写真１　明治43（1910）年の新潟駅の写真です。駅から多くの人々が出てきて、駅前には人力車が並んでいます。新潟駅は明治37（1904）年５月３日に、北越鉄道（現JR信越本線）の終着駅として開業しました。開業時は小さな駅舎でしたが、43年にこの駅舎が完成しました。駅は現在の駅の北西約300メートルの所（弁天公園付近）にありました。

写真２　「勇躍出征」と書かれた絵はがきの複写写真です。駅前は出征兵士を見送る多くの人々で混雑しています。この駅舎は昭和10（1935）年３月に竣工しました。竣工祝賀会の開催を伝える新聞記事によると、駅舎には3000人を収容できる広い待合室がありました。

写真３　新潟駅は昭和33（1958）年に現在地に移転しました。移転開業間もない頃の、東大通から見た新潟駅です。駅舎は旧駅の南東の田を埋め立てて建設され、同年４月29日に開業しました。国鉄（現JR）だけでなく、新潟市や民間会社も建設費を負担し、地階には食堂・喫茶店・書店・土産物店などの名店街がつくられました。移転時は２階建てで、３・４階が増築されたのは38年でした。また、駅前から延びる東大通の両側には建物がほとんどなく、ガランとして通りが広く感じられます。

※初代新潟駅の駅舎の写真を探しています。ご存じの方は歴史資料整備室までご連絡ください。

写真１　２代目駅舎　竣工写真と思われる。乗合自動車（バス）はまだなかった。

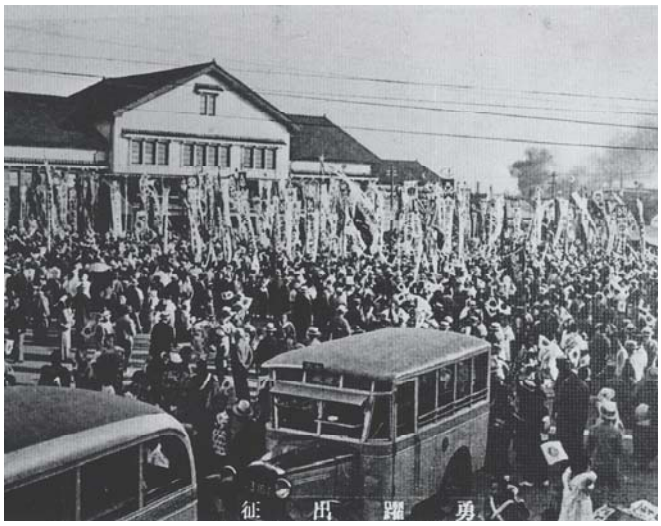


写真２　３代目駅舎　戦時色が強まる時期に竣工した。

写真３　４代目駅舎　現在地に移転し、信越線・越後線・白新線が接続した。

お願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、ご連絡ください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行　新潟市文化スポーツ部
歴史文化課（担当：歴史資料整備室）
〒951-8131　新潟市中央区白山浦1丁目425-9
TEL　025-226-2584
FAX　025-230-0412
Eメール　rekishi@city.niigata.lg.jp